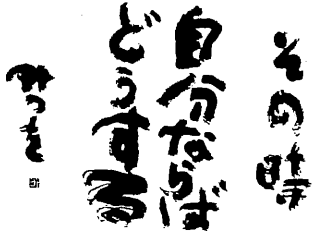


さくら第452号

平成29年8月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: Tel.51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

『根気よくコツコツ続けよう』

今年の夏休みにはこんなことをやろう、あの事にチャレンジしよう、家族といっしょにどこかへ行きたい、自由な時間がたくさんあるから、今までできなかった事をやってみよう、読書やスポーツなどに思いっきり取り組んでみようなど、楽しくなるような計画を立てたことでしょう。

40日間の夏休みですが1週間がもう過ぎ去りました。計画し、実行にうつしたことは何ですか。予定とちがったりしていませんか。

ところで、「一暴十寒」という言葉があります。読み方は「いちばくじっかん」。いちぼうじゅっかんとも読みます。

一日之(これ)を暴(あた)めて十日之を寒(ひや)さば、未(いま)だ能(よ)くする者有(あ)らざるなり。「孟子告子・上篇」

暴の書きかえ文字として「曝」が用いられています。暴は日と獣の死骸(しがい)を組み合わせでできた会意文字です。動物の体を両手でもって日光にあてるさまが文字の成り立ち。

この「一暴十寒」という語は紀元前300年ごろ中国の儒学者「孟子・もうし」によって書かれた書物の中にあります。

「一暴十寒」の意味は、この世にどんなに成長しやすい植物があっても、種をまいてから一日だけ日にあてて温めても、あとの十日間これを冷やしたならとても芽を出すことなどできないということです。

初めは努力してもその後おこたっているのはむだになる。継続することが大事です。

「三日坊主」ということわざがあります。意味は、とてもあきっぽく長続きしないこと、また、そのような人のことをいいますが、皆さんは知っていますね。お坊さんの修行というものは、早朝からおつとめが始まり、食事でも粗食でかんたんなものしか食べられません。一日中、規則正しい生活をせねばなりません。楽な気持ちでお寺で修行を始めてもその厳しさを乗りこえられず、三日もすれば家に帰ってしまう人がいることからできた言葉です。

坊主という言葉は、親しみやあざけりを含めて他の語に付けています。いたずら坊主、やんちゃ坊主などがその例ですね。

話を元にもどします。夏休み中にやりたい計画は今どうなっていますか。これから始める人はどのような目標ですか。

「夏休みの友」などの宿題を前にして、やる気いっぱいページをひろげスタートします。毎日少しずつ取り組めばいいのですが、早めに終えてしまおうとゲームもせずテレビもあまり見ずに1週間ほど頑張りました。

サア、できた。と楽な気持ちになりそれからの日々はのんびり過ごす人が多いようです。まとめて頑張るのもよいのですが、その後の時間を無意味にせぬよう、復讐や予習にも力を込めたいものです。

そろばんの練習でも同じで、1日だけ全力でやったと言い、その後何日も休んでは効果ができません。やはり少ない時間でもコツコツ休まず続けることが大事です。でも、長く続けようと思うのですが嫌になりあきたります。

私はトレーニングジム(アミ・ショッピングセンター)へ28年通っています。行きたくないと思う日もありますが、そんな時は「今日だけががんばろう」という気持ちに切り替えています。40日間の夏休みが終わった時に、自分なりに頑張り続けたことが1つあるよう、無理のない計画を立て、楽しくできるような工夫をしてみましよう。自分の身体で体験したことは大人になった時に大きな財産となります。がんばれ